とかち新聞
主筆 松山明
(発行所)北海道足寄郡足寄町 とかち新聞社 電話2551番
毎旬5の日発行 1部70円 1カ月200円 1カ年前納2,000円

阿寒・九大の二段構えに
学園都市の誘致

研究学園都市の誘致をすすめている足寄町では、これまで雌阿寒山麓の茂足寄国有林野を風光明眉の適地として運動を展開してきましたが、さらに一歩をすすめて、足寄市街近くの美盛から上利別奥地帯にかけての旧軍馬補充部用地だった九州大学演習林三、七〇〇㌶と町有林一、〇〇〇㌶をセットにして才二適地として推進することになりました。

これは茂足寄地区は阿寒国立公園地帯がふくまれていたので自然環境保全のために阿寒、津別の両町にまたがる部分を除いて国立公園地帯をさけたものの、未だにそのイメージが強いこと、交通の面や都市的機能の面で難があつてはと—大事をとつて才一候補地がダメなら才二候補地でとの二段がまえで、あくまでも「阿寒研究学園都市」の実現をめざすことになつたものです。

才二候補地の場合は中心市街近くの平坦地で高いところで標高四〇〇㍍程度で道内でも珍しい広葉樹天然林の密生地帯で白糸の沢地区をへだてて目下建設中の大型レジャー基地アショロハイランドに通ずることになるので、むしろ才一候補地よりも好条件ではないかといわれています。

学園都市才一号を北海道にと—堂垣内知事から諮問をうけた道総合開発委員会(委員長・丹羽北大学長)では、適地選定について北大助教授二名、畜大助教授一名、自治体企画担者一名民間研究所一名に意見を求めたところ、五名のうち四名までが足寄町を適地として名指しであげていることで、それも東部の雌阿寒山麓地帯と北部の旧軍馬補充部跡地を指していることでその理由としては

一、日本一大きな町として北海道らしい気候風土にあること
二、国有地、町有地が多いので、必要なだけの土地の取得が容易であること
三、阿寒国立公園や大雪山国立公園など国際的な景勝地にあること
四、国道二本が町内を縦断交差しており、北十勝線白糠線、阿寒線などの国鉄新線をかかえ、道央と道東を結ぶ交通の要衝にあること

などがあげられ、提唱者の田中首相が自民党幹事長時代に現地を視察したうえでの候補地だけに、誘致運動もさることながら、カギをにぎるのは首相自身とみられています。

議員の報酬アップ
本別町議会 共産党文書が問題

臨時三回の本別町議会は七月十五日午後一時すぎにひらき(欠席は田西議員)開会に先立ち全議員が二万円づつ拠出して役場前のいこいの広場の記念植樹を長谷川議長から水元町長に贈呈、会期を一日として議案に入り、七月一日から字名地番改正の道知事認可にともなつて

▲役場
▲町立学校
▲学校給食共同調理場
▲公民館
▲体育館
▲町民水泳プール
▲保育所
▲へき地保育所
▲季節保育所
▲生活館
▲養護老人ホーム
▲児童館
▲職業訓練センター
▲隔離病舎
▲都市公園

などの字名地番を改正、三町消防事務組合加入によつて消防団条例などの廃止、特別職の給与、報酬などについて

▲町長 三十二万円
▲助役 二十六万円
▲収入役 二十三万円
▲教育長 二十四万円
▲議長 八万円
▲副議長 六万円
▲委員長 五万円
▲議員 四万五千円

に引きあげて四月一日にさかのぼつて適用するものでこれにたいして鳥居議員から、改選前の議会で決めるのはどうかとの意見が出ましたが、各層代表の審議会の答申によるものであり、むしろ改選後よりもこの議会で決めるべきだとして議決しました。

つづいて消防委員を消防団員退職報償金支給審査委員に改め、修学資金貸付審議委員を設けましたが、これに関連して安久津議員が『本別町議選にのぞむ日本共産党の四大政策』として市街全戸に配布した文書をとりあげて『医師や看護婦などの修学資金制度を条例化したのにこれを無視しており、議会の委員会や審議会を公開制にするといい、議会のなれあいをやめさせると書いているが、これまで非公開にしたことはなくなれあい政治はやつていない、議会の品位を傷つけている、議長はなにらかの方法をとるべきだ』との発言があつて協議したうえ長谷川議長が『住民に知らせる方法をとりたい』と答えました。

ついで一般会計予算の補正として

▲仙美里児童館付帯工事 六二万円
▲中央小学校教員住宅一棟二戸新築 八三五万円

を決定して議案審議がおわり、水元町長から改選期を前にした全議員に感謝のあいさつがあつて、町立病院の産婦人科医師が月末に来町し、外科の固定医師が九月一日にくることが内定したとの報告がありました。

ここで蓑島議員から緊急質問があり

蓑島議員 過般の議会で山手町の災害防止対策は十二日までに工事完了とのことだつたが、その後の経過はどうか

椿原管財課長 町の指導ですするようにとのことで、田西議員にきて頂いて技術的、経済的な方法、資材入手の面まで指導したが、現況は指導どおりに実施していない、一週間前に田西議員が土地を大村氏に売つたので大村氏が実施するという

蓑島議員 いつまでにやると決めたがやつていないどうしたらよいのか

などの質疑があつて、町の責任ではないが一種の紛争なので調停しなければならない、議会が山手町の陳情を採択したのだから放つておけない—との意見もあつて議長からさらに田西議員に申し入れることにしました。

このあと長谷川議長から任期最終にあたつて全議員と報道機関へのあいさつがあつて午後二時三十五分に閉会しました。

国のうちそと
保守政党の体質

☆三角大福中の五大派閥による保守連立政権ともいうべき田中内閣は、参議院選の敗北をキツカケにして三木、福田の両氏は自民党の体質改善を理由に閣外に去つたものの、本当の理由はこのままズルズルと田中内閣のなかにいたのでは、明年七月の自民党総裁選挙に立候補するために田中批判の自由を確保するためでなんのことはないつぎの総理大臣をめざして骨肉の争いの戦端開始。

☆戦前は政友会が三井、民政党が三菱といつた形で両財閥がスポンサーとなつてそれぞれ交互に政権を担当したといわれていますが敗戦—占領あけの総理大臣は石橋、岸、池田、佐藤、田中首相に至るまで、いずれも幹事長や大蔵大臣や通産大臣のポストにあつて財界と深いつながりをもつた人に限られているように、これから総理大臣をめざしている福田、大平、三木、中曽根の四氏にしても、いずれもそれらのポストを占めた人ばかりであつて、戦前、戦後を通じて一貫して財界とベッタリであるのが保守政党の体質。

☆このごろになつて金権政治だの企業ぐるみ選挙だのとこと新しげにとりあげるまでもなく、明治、大正昭和を通じてまかりとおつている政治勢力であり、常に国民の大多数がこれを支持しているかぎりは、政治に不満があつても自業自得

暑中お見舞申しあげます

足寄町
町長 小林弘道
助役 富田秋雄
収入役 加藤芳弘
総務課長 鷲岡憲雄
企画課長 谷忠光
税務課長 別宮進
民生課長 松平京
農政課長 原守郎
林務課長 品川昭夫
商工観光課長 土田三郎
建設課長 丸谷彰
水道課長 小泉鶴夫
芽登支所長 野中竹男

足寄町議会
議長 大滝弥助
副議長 斎藤昇
総務委員長 遠山謙
産業委員長 吉田吉之助
建設委員長 鳴海一郎
文教委員長 新沼芳雄
事務局長 山本豊吉

足寄町教育委員会
委員長 新津幸助
教育長 岡靖
足寄町社会教育委員会 委員長代行鷲岡俊昭
足寄町公民館運営審議会 会長 神本三家雄
足寄町スポーツ振興審議会 会長 我妻茂治
十勝オンネトー青年の家組合長 小林弘道
足寄町学校給食センター 所長 斎藤恒次郎

足寄町農業委員会
会長 清水秀雄
会長代理 畠正吉
事務局長 山岡信一

足寄町選挙管理委員会
委員長 鷲岡俊昭

足寄町監査委員会
代表監査委員 森西勝夫
監査委員 神本三也

足寄町国民健康保険病院
院長 加賀谷秀夫
副院長 向醇
内科医長 柏木道彦
医員 向幸恵
事務長 喜多一男
同次長 横山三郎

足寄町社会福祉協議会長 三宅隆義
共同募金会足寄分会長 長田栄
足寄町遺族会長 工藤勇作
足寄町母子会長 桂さよ子
身障会足寄町分会長 服部貞吉
日本赤十社足寄分会長 小林弘道
本別保護司会足寄分区会長 近藤悦朗
足寄町老人クラブ連合会長 土田今吉
足寄町民生委員協議会総務 三宅隆義
各事務局長 松平京 同次長 藤村淳

足寄町防犯協会
会長 両角章
副会長 後藤愛一
同 阿部俊夫
同 渡辺昭

足寄町衛生組合
組合長 三宅隆義
副組合長 長田栄
同 庄司博

足寄町開発促進期成会
会長 小林弘道
副会長 大滝弥助
同 新沼芳雄